セミがくれたプレゼント

佐野市立界小学校　五年　原　碧希

ぼくの家族は、父、母、兄、ぼく、弟の五人です。家族みんなで公園の草むしりのボランティアをやっています。夏の晴れた暑い日の朝、公園の木に羽化しているよう虫を見つけました。せなかの中央にたてのさけめが出来てそこからせなかや頭、前足が出ていました。よう虫から成虫になるとちゅうで動かなくなっていました。本で読んだ事はあるけど、実際に羽化しているすがたを見たのは初めてだったので、草むしりをわすれてじっと見ていました。数分で変化が起きると思っていたら動かないまま木から落ちそうだったので心配になりました。羽化しているよう虫をさわらないようにして見守っていました。少しずつ体が出ていく様子にわくわくしました。あとちょっとのところで羽化が止まってしまいました。セミが飛び立つところまで観察したかったけど「無事にセミになってね。」と声をかけて家に帰りました。それから一週間くらいは、ミーンミンミンミーンの鳴き声が気になりました。まるで公園の時に出会ったセミとその仲間たちが精いっぱいに「セミになったよ。ありがとう。」と鳴いているように聞こえました。夜ぼくの家のリビングのあみどに1ぴきのセミが来た時には、ぼくに会いに来てくれたようで、本当にびっくりしました。きちょうな体験をさせてくれたセミにすごくかんしゃしています。

セミの羽化体験を通して、たった1つの小さな生き物の命の大切さを学びました。生き物が安心してくらすには、自然と人とのくらしのつながりが必要です。日々の生活の中で自然や生き物に関心を持って大切にしていきたいと思いました。これからも、まだ体験したことのない自然や生き物の世界を体中で感じたいです。

いつでももどって来てね

龍ケ崎市立八原小学校　五年　荒井　千波

わたしの家のうらには森がありました。冬の終わりごろから、白いヘルメットをかぶった人が森の木を見に来るようになりました。そして春休み、とつ然黄色いショベルカーが入ってきました。たった二日で木がなくなり、景色がすっかり変わってしまいました。お友達のお母さんが「ここに太陽光発電ができるらしいよ。」と教えてくれました。

森からわたしの家に色々な鳥が遊びに来ていました。春の始まりにはウグイスがホーホエと鳴く練習を始めます。ホーホケキョウと鳴けるようになるとウグイスと一しょに喜びました。キジの子どもたちがお母さんキジと一しょに散歩をするようすもかわいかったです。わたしが顔を出すと急いでにげていきました。森のとなりの畑にローラーがかけられると、森から色々な鳥が土から出てきたエサを食べに集まりました。家のへいの上に鳥が止まってチョンチョンと歩いて次々に飛び立っていきました。

「わたしの家のへいは鳥たちのかっ走路なんだよ。」と友達に自まんしていました。夏休みに自分で作った鳥笛をキーキーと鳴らすと、森から鳥がチチチと返事をしてくれたこともありました。

今年の春、去年まで遊びに来ていた鳥たちがまったく来なくなってしまいました。木は成長するのに何十年もかかります。たくさんの木が成長して鳥が住むようになるのに、どのくらい時間がかかったでしょうか。森を元にもどそうとしたらどのくらいの年数がかかるでしょうか。たった二日で森がなくなって、わたしはさびしくて、悲しくてそしてこわくなりました。

わたしは庭にミカンの木を植えました。いつか鳥たちがまた遊びに来てくれるように。